

平成 28 年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成 29 年 5 月

盛岡市（岩手県）

○計画期間：平成 25 年 12 月～平成 30 年 3 月（4 年 4 月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 28 年度終了時点（平成 29 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成20年7月に国の認定を受けた「盛岡市中心市街地活性化基本計画」の計画期間終了後、新たに「第2期盛岡市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成25年11月に認定を受けた。第2期計画においては、3つの基本方針「商店街の賑わいや魅力を楽しむ中心市街地」、「暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成」、「盛岡の歴史や文化に触れる中心市街地の形成」に基づき、全60事業の実施により、さらなる中心市街地の活性化を目指している。

平成28年度は、平成27年度中に保存修理が完了した岩手銀行赤レンガ館（「岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業」）が、中心市街地の新たな観光拠点として7月にオープンするとともに、「ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業」では、「もりおかまちなか（ラリー）検定事業」のほか中心市街地で開催されたイベント等と連携するなど、中心市街地への来街を促進する事業が活発化した。

一方で、主要事業のハード整備事業には実施中または未実施の事業があり、そうした事業を着実に進めることで、引き続き中心市街地の活性化を推進していく。

2. 平成 28 年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 28 年度は、目標指標である盛岡市街の宿泊観光客数が昨年より増加し、目標値も達成しているほか、もりおか歴史文化館の入館者数も増加しており、取組の成果が徐々に現れてきているものと評価する。

一方で、中心市街地の歩行者・自転車通行量については、天候による影響があったものの、目標達成までには最大限の努力がなお必要であることから、進行中の事業を着実に実行するとともに、中心市街地の回遊性向上に向け、ソフト事業にもこれまで以上に注力する必要がある。なお、中心市街地を訪れる要因や観光に訪れる要因など、指標を構成する様々な要因についての分析も重要である。

平成 29 年度は、40 回目となる盛岡さんさ踊りや、復興関連イベントの開催などにより、平成 28 年度と同様、一定規模の交流人口が期待できることから、引き続き市民総参加のおもてなし機運の醸成や中心市街地の回遊性向上に努めるとともに、地域経済の好循環に大きな効果が期待されるMOR I O-Jカードの事業についてもさらなる周知を図るなど、まちづくりに関する様々な情報が市民及び事業者に行き届くように配慮願いたい。

また、目標達成を見据え、国際リニアコライダーの実現を踏まえたまちづくり、盛

岡バスセンター再整備事業の推進と公共交通のあり方、PPPやPFI等民間活力を利用した開発等についても検討しながら中心市街地活性化基本計画に基づく盛岡市の将来像を官民が積極的に議論し、社会経済情勢の変化に対応した持続可能なまちづくりが推進されることを期待する。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

| 目標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | 前回の見通し | 今回の見通し |
|--------------|------------------|------------------|------------------|------------------|--------|--------|
| 賑わいあふれる中心市街地 | 中心市街地の歩行者・自転車通行量 | 48,332人 (H25) | 52,000人 (H30) | 42,098人 (H29) | ② | ② |
| 賑わいあふれる中心市街地 | 大通コアエリア周辺の居住人口 | 5,202人 (H25) | 5,400人 (H30) | 5,362人 (H29) | ② | ③ |
| 訪れたい中心市街地 | 盛岡市街の宿泊観光客数 | 50.0万人 (H22) | 56.2万人 (H29) | 68.2万人 (H28) | ① | ① |
| 訪れたい中心市街地 | もりおか歴史文化館の入館者数 | 25.1万人 (H24) | 27.0万人 (H29) | 25.0万人 (H28) | ③ | ③ |

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地の歩行者・自転車通行量」については、前回は4,112人下回る結果となった。指標調査日の悪天候に加え、老朽施設の解体等の影響により施設周辺の歩行者が減少したものと考えられる。基本計画掲載事業の着実な進捗を図るほか、「ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業」の対象店舗の拡大やポータルサイトによる情報発信の充実など、回遊性に寄与する事業の実施により目標達成に取り組んでいく。

「大通コアエリア周辺の居住人口」については、「中央通二丁目地区優良建築物等整備事業」の効果等により平成27年に増加し、平成28年もほぼ横ばいの結果となった。実施予定のハード事業に遅れが生じているものの、居住利便性向上のための事業や、商店街の魅力向上につながる事業の実施により目標は達成可能であると見込んでいる。

「盛岡市街の宿泊観光客数」については、岩手銀行赤レンガ館（「岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業」）が7月にオープンしたほか、希望郷いわて国体・いわて大会の開催、北海道新幹線開業による交流人口の増加に伴い、前回から2.0万人増と高水準が続いている。今年度40回目を迎える「夏祭り（盛岡さんさ踊り）の開催」等により、目標は達成可能であると見込んでいる。

「もりおか歴史文化館の入館者数」については、前回から2.1万人の増加となっており目標値に近付きつつあるものの、希望郷いわて国体・いわて大会や、20年ぶりとなった「ニッポンめんサミットin盛岡2016」の開催による集客が要因の1つであると考えられることから、引き続きもりおか歴史文化館内で事業を実施すると共に、「もりおか広域まるごとフェア」をはじめとする歴史文化館周辺のイベント開催により、回遊性の向上を図り目標達成に取り組んでいく。

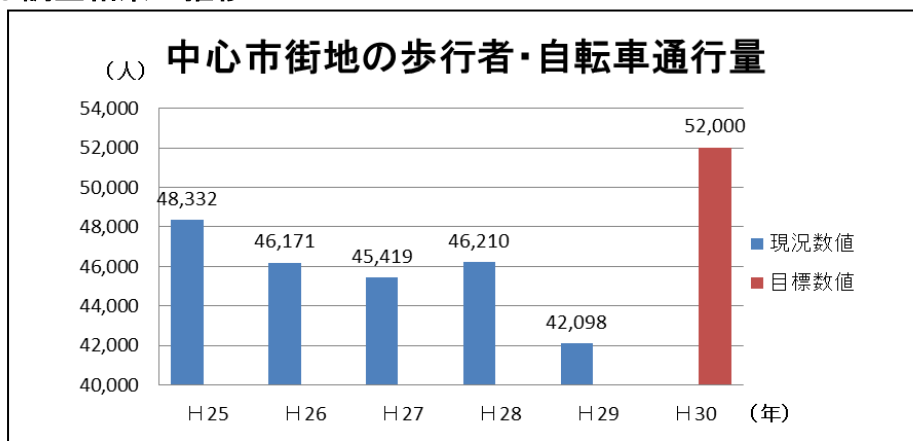
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「大通コアエリア周辺の居住人口」については、平成27年度フォローアップにおいて、「中央通二丁目地区優良建築物等整備事業」が計画どおり完了したものの、居住人口が目標達成に至らなかったことから、実施予定事業の推進が必要であると判断し、②と見込んでいた。平成28年度においては、実施予定のハード事業の進捗が思わしくなかったものの、前年の居住人口を概ね維持出来ていることから、ソフト事業等の実施によるエリアの魅力向上により、目標達成は可能であると判断し、③と評価した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P89～P93 参照

●調査結果の推移



| 年 | (人) |
|-----|------------------|
| H25 | 48,332 (基準年値) |
| H26 | 46,171 |
| H27 | 45,419 |
| H28 | 46,210 |
| H29 | 42,098 |
| H30 | 52,000 (目標値) |

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（毎年3月に実施）

※調査月：平成29年3月26日（日曜日）、27日（月曜日）

※調査主体：盛岡まちづくり株式会社

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、2日間8地点（数値は加重平均）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 盛岡バスセンター再整備事業（株盛岡バスセンターほか）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 平成28年度【実施中】 |
| 事業概要 | 現在の盛岡バスセンターを建替え、バスターミナル機能の強化を図るとともに、商業機能や公益的機能が充実した複合施設として再整備する。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 資材費や労務費の高騰などにより、当初の計画どおりの進捗が難しいことから(株)盛岡バスセンターが事業実施を断念したため、平成28年度末までに建物を解体し更地とした土地を市が取得した。今後、関係団体と協議・調整を進め、早期の実施に努める。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量140人の増加が見込まれる。 |

②. (仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業（株岩手銀行）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 平成28年度【済】 |
| 事業概要 | 岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）を保存修理し、見学・展示等の施設として活用を図る。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成27年度に保存修理が完了。平成28年7月に一般公開開始。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量106人の増加が見込まれる。 |

③. (仮称) 河南地区駐車場整備事業（盛岡まちづくり(株)ほか）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 平成28年度【実施中】 |
| 事業概要 | 河南地区にある平面駐車場を立体化し、河南地区の商店街や核店舗である商業施設の利便性の向上を図る。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成26年度に実施した商店街まちづくり事業(中心市街地活性化事業)による調査を踏まえ関係機関との協議を行っている。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量192人の増加が見込まれる。 |

④. 中央通二丁目地区優良建築物等整備事業（優良建築物等整備事業）（盛岡市中央通二丁目地区再開発ビル建設協議会）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 平成27年度【済】 |
| 事業概要 | 土地の高度利用を図るとともに、防災性、省エネに配慮したマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成27年9月に分譲マンション（110戸）が完成。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量の増加に寄与したものと見込まれる（増加人数見込158人）。 |

⑤. 【追加】ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業（盛岡商工会議所・盛岡ValueCity(株)ほか）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 平成26年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 盛岡市内の商店街で共通して使用できる地域カードの導入及びポータルサイトの構築による情報発信。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 中心市街地で利用する地域カードが約10万人に普及し、カード加盟店のポータルサイトでの情報発信も開始したことから、中心市街地の回遊に寄与していると推測される。今後は加盟店の拡大とポータルサイトの充実を図る。本事業の実施により、中心市街地歩行者・自転車通行量402人の増加が見込まれる。 |

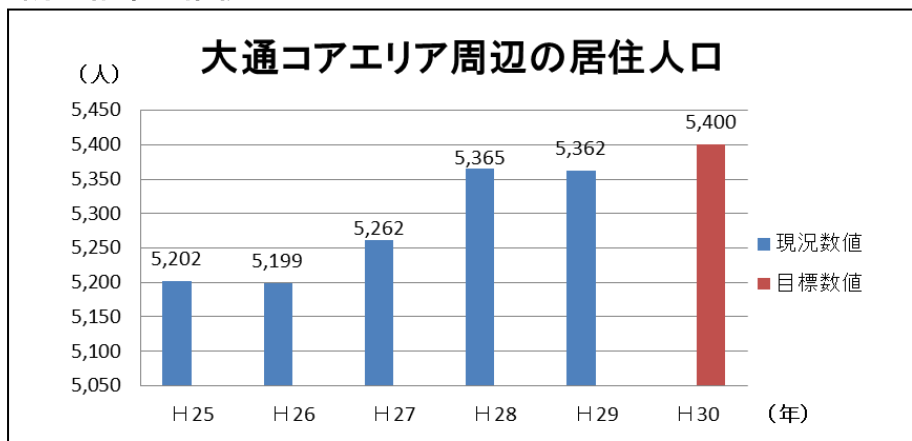
●目標達成の見通し及び今後の対策

平成28年度の歩行者・自転車通行量が前回は4,112人下回る結果となった。指標調査日の悪天候により、自転車利用者が自家用車や公共交通機関を利用したことが影響したことと、「盛岡バスセンター再整備事業」による盛岡バスセンターの解体のほか、施設の老朽化に伴う解体や機能移転が相次いだことにより施設周辺の歩行者が減少したことが要因と考えられる。ハード整備事業の進捗に遅れが生じていることから、今後関係団体と協議・調整を進めることで、早期の実施に努めていく。

一方、ソフト事業の商店街活性化事業や公共交通利用促進関連事業等は、計画どおり実施されており、「ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業」においては、地域カードが平成27年度から2.0万人増の10万人に増加し普及が広がっていることから、今後も引き続き利用拡大を進め、目標達成を目指していく必要がある。

「大通コアエリア周辺の居住人口」※目標設定の考え方基本計画P94～P96参照

●調査結果の推移



| 年 | (人) |
|-----|-----------------|
| H25 | 5,202 (基準年値) |
| H26 | 5,199 |
| H27 | 5,262 |
| H28 | 5,365 |
| H29 | 5,362 |
| H30 | 5,400 (目標値) |

※調査方法：住民基本台帳

※調査月：平成29年4月（平成29年3月末の数値）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：大通コアエリア（大通・中央通・内丸・大沢川原・菜園地区）の居住人口

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 中央通二丁目地区優良建築物等整備事業（優良建築物等整備事業）（盛岡市中央通二丁目地区再開発ビル建設協議会）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 平成27年度【済】 |
| 事業概要 | 土地の高度利用を図るとともに、防災性、省エネに配慮したマンションを建設し、まちなか居住の推進を図る。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成27年9月に分譲マンション（110戸）が完成。 本事業の実施による大通コアエリアの居住人口の増加は178人と見込んでいたが、完了により中央通二丁目の居住人口227人の増加に寄与した。 |

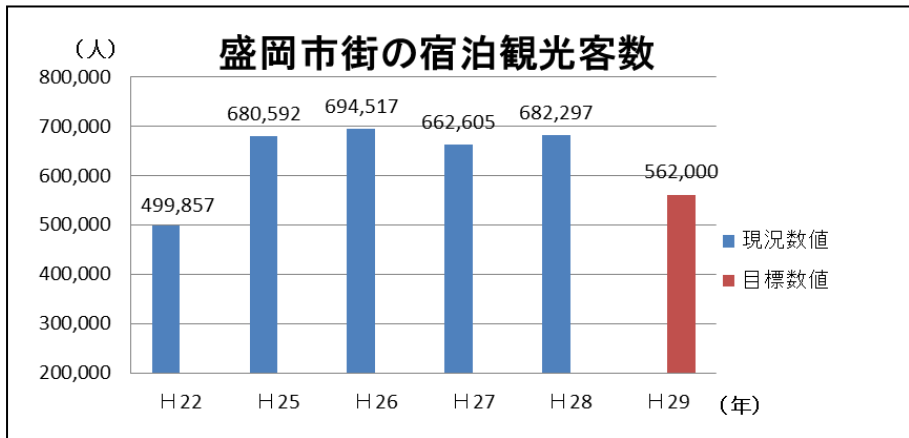
●目標達成の見通し及び今後の対策

「中央通二丁目地区優良建築物等整備事業」の効果等により、居住人口は平成27年に増加し、平成28年もほぼ横ばいの結果となった。

実施予定のハード事業の進捗が思わしくなかったものの、前年の居住人口を概ね維持出来ていることから、今後の対策としては、継続して居住利便性向上のための事業や、ソフト事業等の実施によるエリアの魅力向上により、目標達成を目指す。

「盛岡市街の宿泊観光客数」※目標設定の考え方基本計画P96～P98参照

●調査結果の推移



| 年 | (万人) |
|-----|----------------|
| H22 | 50.0 (基準年値) |
| H25 | 68.1 |
| H26 | 69.5 |
| H27 | 66.3 |
| H28 | 68.2 |
| H29 | 56.2 (目標値) |

※調査方法：宿泊施設からの回答を盛岡市が集計

※調査月：平成29年3月（平成28年1月～12月分の数値）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：盛岡市街の宿泊施設

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. (仮称) 岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業（株岩手銀行）

| | |
|--------|--------------------------------|
| 事業完了時期 | 平成28年度【済】 |
| 事業概要 | 岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）を保存修理し、見学・展示等の |

| | |
|------------|---|
| | 施設として活用を図る。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 平成27年度に保存修理が完了。平成28年7月に一般公開開始。本事業の実施により、盛岡市街の宿泊観光客数8,906人の増加が見込まれる。 |

②. 盛岡・八幡平観光圏整備事業（盛岡・八幡平広域観光推進協議会）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 平成26年度【済】 |
| 事業概要 | 盛岡・八幡平広域観光圏域内の関係団体での連携を強化し、滞在型の観光を展開することで、本市を含めた広域圏の魅力を向上させる。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 盛岡・八幡平広域観光圏整備計画の認定期間の終了に伴い事業完了となるが、実施主体で継続して事業を実施していることから、今後も引き続き盛岡市街への宿泊者数の増加に寄与するものである。本事業の実施により盛岡市街の宿泊観光客数35,990人の増加が見込まれる。 |

③. 夏祭り（盛岡さんさ踊り）の開催（盛岡さんさ踊り実行委員会）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 平成29年度【実施中】 |
| 事業概要 | 伝統芸能である「さんさ踊り」を地域資源として活用し、市内外からの多くの観光客を迎えることにより、近隣の商店街の活性化及び市中心部の魅力の向上を図る。 |
| 事業効果及び進捗状況 | 予定どおり事業は進捗しており、盛岡市街への宿泊者数の増加にも結び付いている。本事業の実施により、盛岡市街の宿泊観光客数37,573人の増加が見込まれる。 |

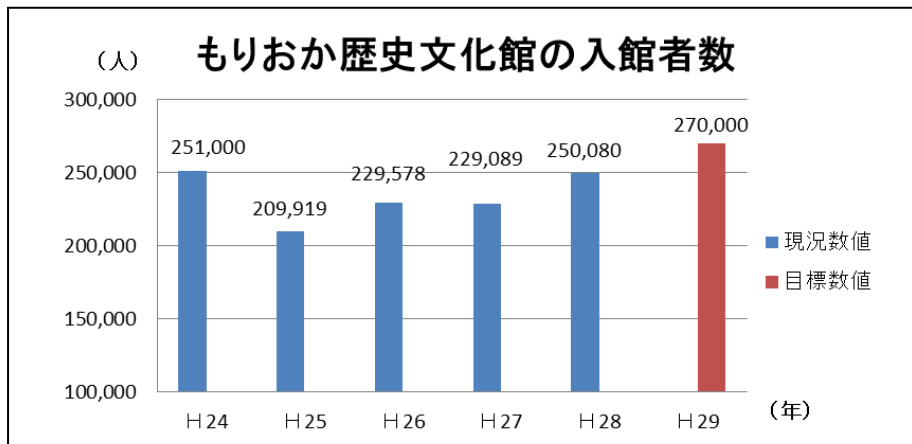
●目標達成の見通し及び今後の対策

平成28年の盛岡市街の宿泊観光客数は、岩手銀行赤レンガ館（「岩手銀行旧中ノ橋支店（赤レンガ）活用事業」）が7月にオープンしたほか、希望郷いわて国体・いわて大会の開催、北海道新幹線開業による交流人口の増加に伴い、前回から2万人増と高水準が続いている。また、観光客入込数は、統計開始以降最高となる平成27年の509万人回までは届かなかったものの、500万人回を超える入込数となり、外国人観光客も前年比7割強と増加を続けていることから、目標は達成可能であると見込んでいる。

なお、平成27年の観光消費額単価は県外宿泊客で31,077円（26年比106.3%）、県内宿泊客で17,653円（26年比107.3%）となっており、増加傾向にある。

「もりおか歴史文化館の入館者数」 ※目標設定の考え方基本計画P98～P99参照

●調査結果の推移



| 年 | (万人) |
|------|----------------|
| H 24 | 25.1 (基準年値) |
| H 25 | 21.0 |
| H 26 | 23.0 |
| H 27 | 22.9 |
| H 28 | 25.0 |
| H 29 | 27.0 (目標値) |

※調査方法：歴史文化課への聞き取り調査

※調査月：平成29年3月（平成28年1月～12月の数字）

※調査主体：盛岡市

※調査対象：もりおか歴史文化館

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. もりおか歴史文化館教育普及・学芸事業（盛岡市・もりおか歴史文化館指定管理者）

| | |
|------------|---|
| 事業完了時期 | 平成29年度【実施中】 |
| 事業概要 | 企画展や、学校等と連携した事業の実施により、盛岡城跡や周辺城下町を魅力的な観光資源として機能させ、市民や観光客等の回遊による賑わいの創出を図る。 |
| 事業効果及び進捗状況 | もりおか歴史文化館の入館者数は平成27年に比べ増加しており、目標に向けて、引き続き事業を進めていく。本事業の実施により、もりおか歴史文化館の入館者数12,550人の増加が見込まれる。 |

②. まちなか情報センター運営事業（盛岡市・もりおか歴史文化館指定管理者）

| | |
|------------|--|
| 事業完了時期 | 平成29年度【実施中】 |
| 事業概要 | 中心市街地をはじめとする市内のイベントや商店街等に関する情報を提供し、中心市街地のまち歩きの拠点とすることにより、市民や観光客の回遊性を高め、中心市街地の活性化を図る。 |
| 事業効果及び進捗状況 | もりおか歴史文化館の入館者数は平成27年に比べ増加しており、目標に向けて、引き続き事業を進めていく。本事業の実施により、もりおか歴史文化館の入館者数5,020人の増加が見込まれる。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成28年のもりおか歴史文化館の入館者数は25.0万人と、平成27年に比べて約2.1万人の増加となった。月別の入館者数が前年比で増加傾向にあるとともに、年間の入館者数が当館開設当初時の平成24年に並ぶ入館者数に回復しており、主要事業の効果が発現していると考えられるが、希望郷いわて国体・いわて大会や、20年ぶりとなっ

た「ニッポンめんサミットin盛岡2016」の開催による一時的な集客も入館者数の増加に繋がったと考えられる。

引き続きもりおか歴史文化館教育普及・学芸事業や「ポータルサイトと連携した新地域カードシステム事業」の地域カードを使った取組を強化していくとともに、歴史文化館周辺で開催が予定される復興関連イベントや、「もりおか広域まるごとフェア」・「いしがきミュージックフェスティバル」などのイベントとの相乗効果により、中心市街地の回遊性を高め目標達成を目指す。